

# 東日本大震災災害対策NEWS

◇東日本の仲間とともにがんばろう◇

〒336-8512 埼玉県さいたま市南区鹿手袋 6-18-12 TEL048-863-6211 Fax048-837-1989

「あの日以来、こんなに心の底から笑顔になれたのは初めてです。ありがとう」



埼玉土建のボランティアの仲間

## 被災地・宮城県石巻市へ・ボランティア報告

【ふじみ野支部・鯉淵太記】私は、五月二日から六日まで、東日本大震災災害ボランティア活動に参加させていただきました。私は五月三日現在で死者六千人、行方不明者二千人以上だと聞きました。宿泊場所の松島から車で約一時間かけて石巻市内にある宮城対連石巻ボランティアセンターまで三日間通いボランティア活動をしてきました。

私のチーム十一名は、三軒の床板剥し瓦礫・ヘドロ撤去等の作業を行いました。私が主に担当させて頂いたのが立花邸（瓦礫・ヘドロ撤去）でした。作業初日は室内の瓦礫撤去作業。三軒先の家の物から元々ここにあった物がグチャグチャに積み重なり、とても運び出せる状態ではないため、先に壁、間仕切りを解体してから瓦礫を運び

出しました。エレク トーンや裏の扉で使われていた石のかがたまり、冷蔵庫など、重量物が多く大変でしたがなんとか全て運び出すことができました。二日目の作業は瓦礫の下に積もったヘドロの撤去作業。この作業が一番きつかったです。津波が来た際にトイレの汚物や車のオイルなどが混ざり悪臭を放つため、マスクを付けていたのですが、汗でマスクが目詰まりし息苦しくなり、どうしようも有りませんでした。三日間の作業を終えて最後にお礼の言葉をいただきました。「あの日以来、こんなに心の底から笑顔になれたのは初めてです。有り難うございました。皆さんの仕事をみていたら、これから先がんばって行こうというきっかけが出来ました。」普段仕事のお客さんから言われる「ありがとう」と今回の「ありがとう」は伝わってくる想いが違い、感動しました。



作業をした家主の立花さん（お母さん）が、震災のあったあの日の話をしてくれました。今まで経験したことのない非常に強い揺れに「絶対に津波が来る、日和山（ひよりやま）に非難しなくては」とすぐに思ったそうです。日和山に向かう途中、逃げ惑う人たちに「津波が来るから山に逃げなさいや駄目だよ」とたくさんの人達に声を掛けながら必死になって山に登ったそうです。頂上に着いてしばらくすると、今まで見たことが無い非常に大きな津波が街を一気に飲み込み、その光景を目にした立花さんは何も言葉が出ず、ただただ呆然としていただけだったそうです。やがて、日が暮れてきて辺りを見回すことが出来ず、下で逃げ遅れたけど助かった人たちが屋根の上や

高いところから何かで明かりをつけて「助けてくれ」と、こちらに向かってくれ」と、こちらに向かつて合図をしていたそうです。その光が最初はたくさんあったのですが、夜になり気温がだんだん下がると光が消えていき、また一つと光が消えていききました。さらに追い討ちをかけるように、石巻地区では夜十二時ごろから雪になり、一段と気温が下がると、どんどん、光が消えてなくなっていく、明け方ごろにはほとんどの光が消えてしまったそうです。地震と津波だけでなく、海水をかぶり体温が奪われてしまい、亡くなってしまう方たちがこの石巻地区でもかなり多かったそうです。この辛い出来事に涙を流しながら語ってくれた立花さんの姿に、私も何処からともなく涙があふれ出てきました。



この様な話は他の被災地でも、たくさんあったそうです。しかし、立花さんは「私は、生かされたんだ。この震災で多くの方が亡くなつたけどその人たちの分まで残りの人生一生懸命生き抜いていかなければ。」と、力強いお言葉。私は立花さんに「一緒にがんばりましょう」と言っておきながらその言葉に逆に勇気付けられました。

今回ボランティア活動に参加するにあたり、正直、私は犠牲にできたものがあります。それは、「仕事、そして何よりゴールデンウィークということもあり妻、子供たちとの時間」しかし、仕事では連休中も動く現場に入ってもらっている職人さん達、協力業者の方々が「俺達が居るのだから大丈夫だよ。心配しないでがんばってきなよ。」また、子供たちは「どうせまた、土建でしょ。慣れてるから。がんばってね。」妻は「余震がまだ、続いているから心配だけど日本がこんな状況なのでがんばってきてください。」皆、不満が有るにもかかわらず、言葉には出さないで快く送り出してくれました。本当に感謝しています。今回のボラン



ティア活動で貴重な出会い・経験を得ることができました。この間の出来事は私にとって貴重な財産です。日和山の頂上で「石巻市民憲章」が貼られていたのでその一文をご紹介します。

#### 「石巻市民憲章」

守りたいものがある  
それは生命（いのち）の  
営み 豊かな自然  
伝えたいものがある  
それは先人の知恵  
郷土の誇り  
大切にしたいものがある  
それは人の絆（きずな）  
感謝の心  
私たちは  
石巻で生きてゆく  
共に作ろう 輝く未来



【狭山支部・佐藤敏昭記】三月十一日の夜は、ボタン雪が降っていた。避難した日和山の高台から海を見ていると、屋根の上、浮遊物の上などから助けを求める懐中電灯が灯っている。それが一つ消え二つ消え、明りが減っていく。ずぶ濡れの体が冷えて死んでいく事を示している。涙を流して見ている自分には、どうしようもなかった。津波は、まず水面から上がり高波が襲ってくる。その間二秒か三秒、一瞬の出来事。その後は、高い建物と二階の屋根がポツポツと見えるだけ。」ボランティア先の元呉服商の奥さんから東日本大震災当日の様子を教えてくださいました。



現地では、広範な壊滅地域は自衛隊、道路にあふれたガレキ・廃棄物・自動車・ヘドロの土壌は各自治体の行政が担っていました。埼玉土建は、建設系のボランティアの仕事として、建物が直せば使える状態で住人がいて、支援センターに要請があった建物に行きました。作業内容は、床板を剥がして、床下のヘドロ撤去、海水がしみた断熱材・ボードの撤去、壊れた間仕切りの撤去、室内の流入物の撤去、壊れかけたブロック塀の解体などです。壊している箇所と内容を、住人と確認しながらの作業となります。しかし、まだ電気が通っていない家、水が使えない家はまだありました。朝食は自前が原則でしたが、コ

ンビニや食堂はありませんでした。しかし、お湯を沸かしてくれたり、お茶やお菓子を出してくれる家もありました。またボランティア先の家では、メチャメチャ感謝され、充実感はすごいありました。報道では、住人から直接話は聞けませんし、臭いは伝わりません。ぜひ時間を作って現地へ行ってください。行っただけのことはあります。



#### 【お詫びと訂正について】

東日本大震災災害対策NEWS No.10の中で、岩手県連からの報告で「仲間の被害状況は660人の死亡と行方不明が600人以上（4/12現在）」と記述されていますが、正しくは、「仲間・家族含め69人が死亡・行方不明（4/28現在）」の誤りです。訂正してお詫び申し上げます。